61 シャミセンガイ属の一種　（シャミセンガイ科）　兵庫県ランク：A

Lingula sp.　aff. *reevei*　ウスバシャミセンガイ　環境省ランク：指定なし

種の概要

潮間帯下部から潮下帯の細砂から砂泥底に潜って生息している。舌形をした殻長20mm程度の2枚の薄い殻板をもつ。殻色は淡い褐色を帯びた淡緑黄色を呈し、小型個体ではより淡色となる。殻の後端から殻長の2倍以上の肉茎が伸び、軟体前端には比較的長い触手冠をもち、周縁にも短い触手を有する。本県産はウスバシャミセンガイ *L. reevei* と考えられるが、本誌では不明種として扱った。

主要な選定理由

人為性			生息環境の特殊性		学術性		
個体数激減	分布域に影響	営利目的捕獲	特殊生息環境	地域的孤立	分布が極限	分布の限界	希少
			○	○			○

県内分布

姫路市、洲本市

県内における生息状況及びその他特記事項

新規追加種。県内では、淡路島の洲本市に比較的まとまって生息する場所が2箇所ほどある。潮通しの良い内湾環境下にある砂泥底床で、特にアマモ場周辺に多く生息している。播磨灘においては、近年、姫路市の前浜干潟の2箇所で若齢個体が各1個体確認されたにすぎないことから、淡路島のような個体群の存在はないとみなされるが、今後も単発的な確認例は増えるものと考えられる。

保護上の留意点

潮通しの良い内湾環境下にあるアマモ場や砂泥底床自体の存在が少なく、これが本種の希産の要因となっている。既知産地の直接的な埋め立てや護岸を施さないこと、水質の変動を招く要因を排除すること、大なり小なり存在するアマモ場の存続などに努める。

写真提供：増田修

写真提供：増田修

【執筆者】　増田修